

メバチ 中西部太平洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

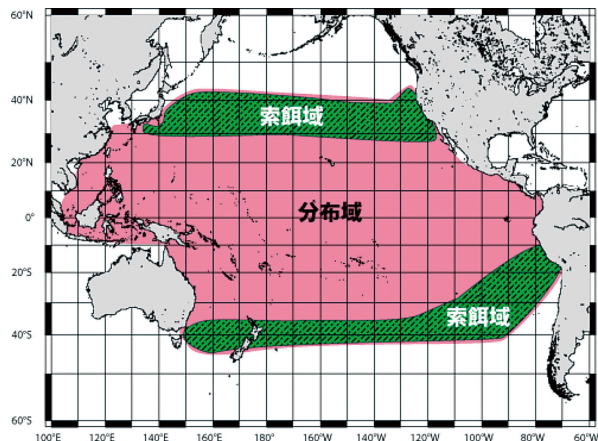
太平洋におけるメバチの漁獲量は 1980 年代初頭のおよそ 12 万トンから徐々に増加し、2000 年以降 25 万トン前後で推移している。2011 年の太平洋における本種の漁獲量は最近 10 年間で最低の 235,266 トンであり、そのうち中西部太平洋 (WCPFC 条約水域) での漁獲は 159,479 トン (太平洋全体の約 68%) であった。本海域におけるメバチの包括的な資源評価が 2011 年に行われた。

生物学的特性

- 寿命: 10 ~ 15 歳
- 成熟開始年齢: 3 歳
- 産卵期・産卵場: 周年、表面水温 24℃ 以上の海域
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料



太平洋におけるメバチの分布

漁業の特徴

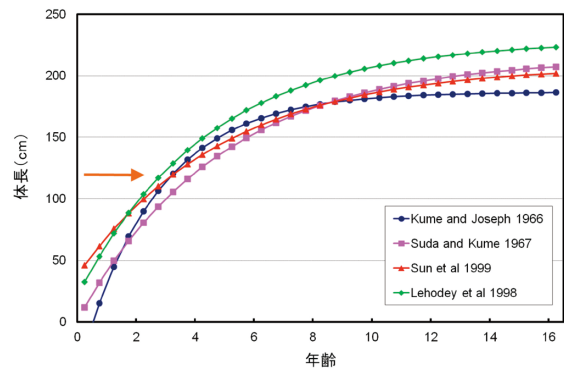
本種の漁業はやや深い水深帯 (100 ~ 250 m) を狙うはえ縄と、表層付近を狙うまき網・竿釣りが主である。従来、はえ縄の漁獲が安定的に大半を占め、主に 100 cm 以上の中・大型魚を漁獲してきた。一方、表層では 30 ~ 100 cm 未満の小型魚を漁獲する。1990 年代からの FADs を用いたまき網操業で小型魚の漁獲が急増し、大きく資源にインパクトを与えている。はえ縄漁獲物の多くは我が国市場向けの刺身用だが、まき網漁獲物は缶詰原料となる。はえ縄漁業国は日本・台湾・韓国・中国等であり、主要なまき網漁業国は米国・台湾・フィリピン・日本などである。

漁業資源の動向

主要な漁業はまき網とはえ縄であり、主に赤道域で漁獲されているが、はえ縄の場合にはある程度の漁獲を亜熱帯域 (例えば日本東方及びオーストラリア東方沖) でも漁獲している。また、多くの小型魚がフィリピンとインドネシアの小型まき網やひき縄等によって漁獲されている。全太平洋におけるメバチの漁獲量は 1980 年代初頭のおよそ 12 万トンから徐々に増加し、12 ~ 29 万トンの間で推移している。2011 年の太平洋における本種の漁獲量は過去 10 年間で最低の 235,266 トンであり、そのうち中西部太平洋 (WCPFC 条約水域) での漁獲は 159,479 トンであり、過去 10 年のほぼ平均レベル (太平洋全体の約 65%) であった。

資源状態

今回の結果では、MSY は 74,993 mt と推定され、近年の漁獲量はそれを大きく上回っている。近年の漁獲レベルは近年の高い加入を仮定しても、長期間維持することはできないと結論される。 $F_{current}/F_{MSY}$ はすべてのケースで 1 を上回っており、MSY レベルを確保するには、グリッド中央値を参照するならば、1.42 と推定され、2006 ~ 2009 年漁獲死亡レベルの 30% の削減が必要である。現在の資源状態の評価によれば $B_{current}/B_{MSY}$ が 1.34、親魚資源量では $SB_{current}/SB_{MSY}$ が 1.37 といずれも 1 を上回っており、親魚資源が MSY レベルを下回っている確率は 13% と推定され、乱獲状態にはない (乱獲状態に近づいていると著者は考えている)。また、もし小型魚の死亡が減少すれば、MSY は増加し、現在よりも多くの漁獲が許容されると考えられる。



中西部太平洋メバチの年齢と成長
矢印はほぼ全ての個体が成熟する体長 (尾叉長 120 cm) を示す

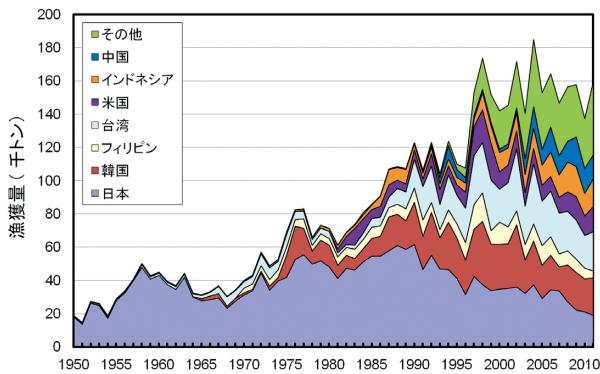
管理方針

2012 年 12 月に開催された WCPFC 本会合において、我が国等がメバチの幼魚を多量に混獲する熱帯域の大型まき網漁船の管理強化を求め、協議の結果、2013 年から 2017 年の 5 年間でメバチの過剰漁獲を解消し、資源回復を行う計画を来年中に作成することで合意した。また、2013 年の保存管理措置は、次のとおり採択された。

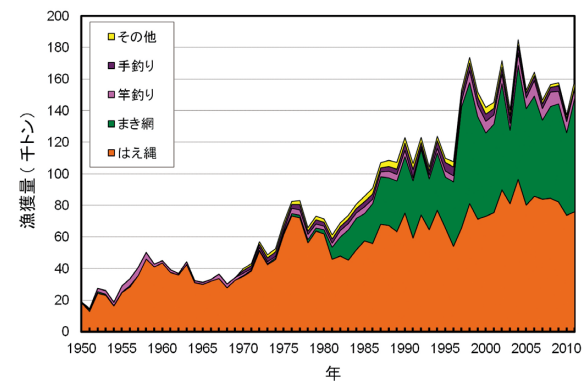
- (a) まき網漁業
集魚装置を用いた操業の 4 か月間（7～10 月）禁止またはそれに相当する FADs 使用制限
- (b) はえ縄漁業
メバチの漁獲量を 2001～2004 年の平均値から 30% 削減

資源評価まとめ

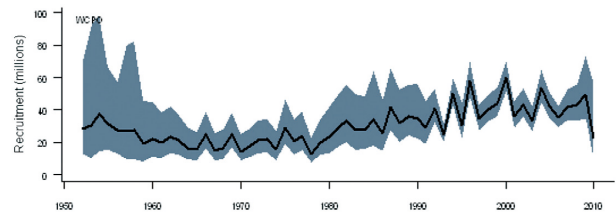
- WCPFC からの委託により、SPC（南太平洋委員会）の OFP（Oceanic Fisheries Programme）が実施
- 統合モデルである Multifan-CL により評価
- 資源水準は中位で横ばい



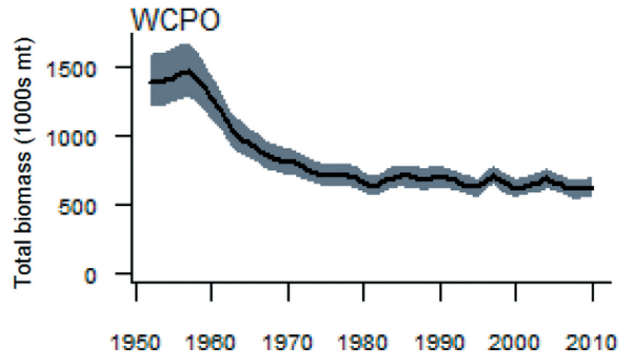
中西部太平洋におけるメバチの国別漁獲量年変化



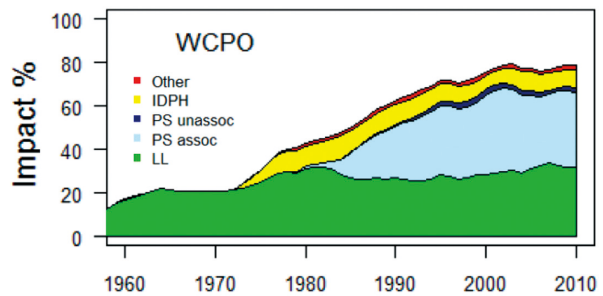
中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量年変化



MULTIFAN-CL で推定された本資源の加入量
灰色：95% 信頼限界



Multifan-CL による本資源の推定総資源量



Multifan-CL による本資源への各漁業のインパクト
緑がはえ縄、青がまき網素群、水色がまき網付群れ、黄がフィリピン・インドネシアの漁業、赤がその他を表す。

メバチ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	中 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	13.7～15.8 万トン 平均：15.1 万トン (2007～2011 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.9～3.4 万トン 平均：2.5 万トン (2007～2011 年)